ただ愛しいと、思う

karunarudo

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ただ愛しいと、思う

【Ｎコード】

Ｎ１２７２ＢＡ

【作者名】

ｋａｒｕｎａｒｕｄｏ

【あらすじ】

貧しくもそんなに豊かでもない、田舎の領主を務めるセスティナ。父の跡を継いで４年。優秀な宰相と気心の知れた騎士たち。幸運にもそんな周囲に囲まれてなんとか政務をこなしていた。あわただしくでも穏やかにそんな日常を送る彼女に訪れたある事件。それは４年前に失い心に封じたはずの想いを呼び醒ました。事件に向き合うたびに開かれていく痛みにくじけつつも、彼女は手を伸ばした。

プロローグ（前書き）

ふと夢で見た話を大学生の時、ほそぼそとノートに書いた小説です。趣味丸出し（男性に夢見過ぎ、主人公愛されすぎ）といわれようが突っ走って書いた代物なので、かなりご都合主義です。いろいろツッコミどころ万歳です。ギャグがあったと思ったらシリアスだったりします。それでも「いいだろう」という心の広い方はどうぞ。恐らく３０章くらいです。更新頻度は週１ペースです。

プロローグ

炎は瞬く間にその部屋を包んでいった。

熱い熱風が私の顔をなでる。息がうまくできない。

それでも私は叫んだ。

「早くっ！そこにいたら死んでしまう！」

思わず駆け寄ろうとした私を駆けつけた僧兵がはがいじめして止めた。

炎の中に飛び込もうとしたのだ、無理もない。

必死に伸ばした手を彼は一瞬見た、だがすぐにそらす。そして私を見た。

今まで見たこともないくらい、憎悪に満ちた瞳で。

息をのむ。

その一瞬にも炎は部屋全体を包んでいった。

「どうして…。」

小さくつぶやいた自分の声は少しかすれていた。

伸ばした手が力をなくして下ろしてしてしまったことにも私は気付かなかった。

そして………。

プロローグ（後書き）

プロローグです。基本的に主人公の一人称で物語は進みます。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能(たんのう)してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1272ba/

ただ愛しいと、思う

2012年1月3日02時59分発行